

島原市への友好交流訪問の旅参加者募集

幸田と島原 380年の歩み

幸田町と長崎県島原市の歴史的なつながりは、380年近く前までさかのぼります。1637年に起こった島原の乱の際、深溝藩主板倉重昌公が総大将として島原に派遣されました。その2年後の1639年に幸田町の高力出身である高力氏当主の高力忠房公が島原の乱で疲弊した領土の復興を幕府から託されて、島原藩主として赴任し、島原半島の復興を果たしました。それから30年後の1669年、幸田町深溝出身の深溝松平家6代当主松平忠房公が混乱した藩政を復興するために、島原藩主として赴任し、その後、忠和公まで13人の深溝松平家当主が島原藩主として島原を治めています。

また、島原市と幸田町の関係を語るうえで欠かすことができないのが、深溝にある瑞雲山本光寺の存在です。島原市にもある本光寺ですが、江戸時代は島原の本光寺が本寺、深溝の本光寺が末寺の関



▲幸田駅から本光寺へ向かう松平忠和公（最後の島原藩主）の御遺骸道中（1917年）



▲本光寺の東御廟所における墓前祭祀の様子(同上)

係で、頻繁に人の行き来がありました。そしてなにより、この深溝本光寺の重要なところは、初代忠定公以降、歴代深溝松平家当主の墓所が築かれていることです。江戸時代、島原藩主は島原で亡くなくても、参勤交代により江戸で亡くなっても、深溝の地に御遺骸が運ばれ、本光寺の墓地に埋葬されました。その都度、島原から深溝へ関係者が訪れ、島原と深溝の間で人々の交流が行われていました。

幸田と島原の歴史的なつながり

1637（寛永14）年 島原の乱
深溝藩主板倉重昌が総大将として島原へ派遣

1639（寛永16）年
幸田町高力出身の浜松藩主高力忠房が島原の乱で疲弊した領土の復興を幕府から託され、島原藩へ移封

移封：大名などを他の領地へ移すこと

1669（寛文9）年
深溝松平家6代目当主松平忠房が刈谷、福知山藩主を経て、島原藩へ移封
島原藩主深溝松平家の始まり

島原藩主となった歴代深溝松平家当主

6代 忠房	7代 忠雄	8代 忠偵
9代 忠刻	10代 忠祇	11代 忠恕
12代 忠瀧	13代 忠侯	14代 忠誠
15代 忠精	16代 忠淳	17代 忠愛
18代 忠和		

1869（明治2）年 版籍奉還
島原藩主松平忠和が最後の藩主として版籍を奉還し島原藩知事となる。



②島原市友好親善交流訪問団による本光寺東御廟所での献花



①島原市と幸田町との歴史と文化の友好交流の推進に関する協定締結

幸田町と島原市の交流

2014（平成26）年7月

幸田町で「島原藩主深溝松平家墓所国史跡指定記念シンポジウム」を開催

2014（平成26）年8月

島原市民文化講座「島原と深溝—松平忠雄が繫ぐ縁—」を開催

2014（平成26）年10月

島原市で深溝本光寺展開催

2014年（平成26）10月11日

「島原市と幸田町との歴史と文化の友好交流の推進に関する協定」締結（写真①）

2014（平成26）年10月

島原市文化連盟が幸田町へ来町

2015（平成27）年3月

幸田町文化協会が島原市を訪問

2015（平成27）年10月

幸田町で「幸田町・島原市歴史と文化の友好交流シンポジウム」開催

2015（平成27）年10月31日～11月1日

島原市友好親善交流訪問団100人が来町（写真②③）



③幸田町を訪れた島原市友好親善交流訪問団 100人の皆さん

～ 380年の時を超えて、再び交流が熱くなる～

島原市への友好交流訪問の旅 参加者を募集します

平成28年11月6日(日)～11月7日(月)

目的

昨年は、島原市から100人の友好親善交流訪問団をお迎えし、両市町の友好が深まりました。

今年は、本町から100人の訪問団による島原市への訪問を下記のとおり実施し、持続的な交流を通じて、両市町のさらなる発展と、一層の友好関係を促進します。

11月6日(日)	幸田町民会館駐車場 ⇒ 中部国際空港 ⇒ 長崎空港 ⇒ 島原市姫松屋(昼食) ⇒ 歓迎会(島原城) 5:15 = 島原城見学 ⇒ 武家屋敷 ⇒ 島原本光寺 ⇒ ホテル南風楼(宿泊施設) = 親善交流会(夕食)
11月7日(月)	ホテル南風楼 ⇒ 雲仙普賢岳噴火災害犠牲者追悼の碑 ⇒ 雲仙岳災害記念館 ⇒ 土石流被災家屋保存公園 = みずなし本陣(昼食) ⇒ 鯉の泳ぐまち(見学・見送り式) ⇒ 長崎空港 ⇒ 中部国際空港 ⇒ 幸田町民会館駐車場 21:15
●食事：朝食1回 昼食2回 夕食1回(7日夕食は軽食) ●添乗員：2人同行します ●最少催行人員80人	

※宿は男女別の相部屋となります。基本定員5人1室(和室)

参加人員 100人 (おおむね各種団体50人 一般募集50人) ※応募者多数の場合は抽選となります。

参加対象 町内在住、在勤の人 ※18歳以上(高校生不可)

参加費 **27,000円** (実費54,000円のうち、27,000円を推進委員会が助成)

旅行代金に含まれるもの：行程表に明示した、交通費・宿泊代・食事代・乗務員・添乗員経費・旅行傷害保険料
旅行代金に含まれないもの：上記の他は旅行代金に含まれません。

申込方法 ①下記「仮申込書」に必要事項をご記入のうえ、FAX(0564-21-8448)、郵送または持参により、名鉄観光サービス岡崎支店へ応募してください。応募者多数の場合は、8月29日(月)に抽選を行い、後日、結果を名鉄観光サービス岡崎支店からご連絡します。

②参加者が確定しましたら、詳しい旅行条件などを記載した書面を名鉄観光サービス岡崎支店からお送りしますので、書面に基づき、正式な申込手続きをお願いします。

問合せ・申込先

旅行企画・実施 **名鉄観光サービス株式会社 岡崎支店** 総合旅行業務取扱管理者 高木雅仁

〒444-0860 岡崎市明大寺町3丁目17番地 観光庁長官登録旅行業第55号

一般社団法人日本旅行業協会正会員

TEL0564-21-0720 担当 横山・鈴木(平日9:00～18:00 休日：土日祝日)

申込締切 8月26日(金) 必着

島原市への友好交流訪問の旅 仮申込書

在住・在勤を○で囲み、在勤の場合は勤務先を御記入ください

フリガナ	-----	年齢	才	性別	男・女
代表者の お名前	(在住・在勤)				
代表者の 住所	〒 TEL () -				
フリガナ	-----	年齢	才	性別	男・女
同伴者の お名前	(在住・在勤)				
フリガナ	-----	年齢	才	性別	男・女
同伴者の お名前	(在住・在勤)				
フリガナ	-----	年齢	才	性別	男・女
同伴者の お名前	(在住・在勤)				

企画主催 島原市と幸田町の友好交流推進委員会 事務局 企画政策課 政策グループ

島原城

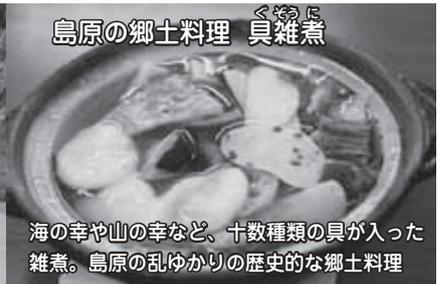
まづのちのちのかみゆげまき
松倉豊後守重政が1618年
(元和4年) から7年の歳月をか
けて築いた島原城。現在、復元さ
れた天守閣にはキリシタン資料や
郷土資料、民族資料などが展示さ
れています。また、島原の乱で知
られる天草四郎の銅像も設置され
ています。



島原本光寺



島原城周辺の武家屋敷跡



島原の郷土料理 貝雑煮

海の幸や山の幸など、十数種類の貝が入った雑煮。島原の乱ゆかりの歴史的な郷土料理



雲仙岳災害記念館

1990年11月に始まった雲仙普賢岳の平成噴火。1996年の噴火終息宣言まで、この地で何が起き、そして、何が残ったのか。自然の脅威と、災害の訓練を、風化させることなく正確に後世へ残します。見て触れてリアルに体感しながら、わかりやすく学習できる日本で唯一の「火山体験ミュージアム」です。



湧水庭園「四明荘」

「鯉の泳ぐまち」の一角にある人気の観光スポット



土石流被災家屋保存公園



雲仙普賢岳噴火災害犠牲者追悼之碑

鯉の泳ぐまち

新町と呼ばれる地域一帯は湧き水が豊富で、全長100メートルの水路があり、別名「鯉の泳ぐまち」と呼ばれています。島原には至る所に湧水があり、昭和60年1月、環境庁から「島原湧水群」として日本名水百選に指定されています。



鯉の泳ぐまち

問合せ 企画政策課 政策グループ

内線3332